

ステークホルダを中心とする ゴール分析方法の提案

2008MI105 木下康介

2008MI274 山下和希

シナリオ

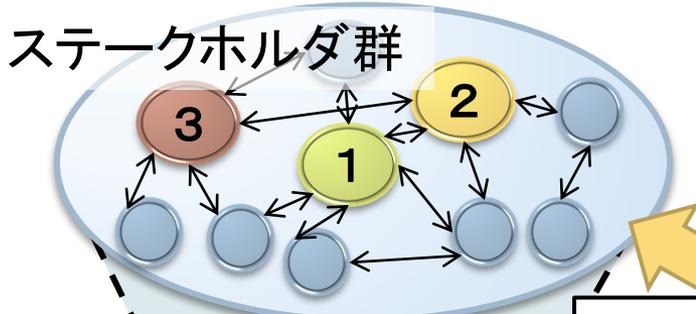
- 研究の全体像
- ステークホルダ絞り込みプロセス
- ステークホルダのデータモデル
- 分析手順
- まとめと今後の課題
- 参考文献

研究の全体像[1/2]

ステークホルダの絞り込みによる、分析情報を限定したゴール分析方法を提案

情報量
多
絞り込み
少

ステークホルダ多様化により関係性の複雑化



ステークホルダの持つゴールが多く複雑化

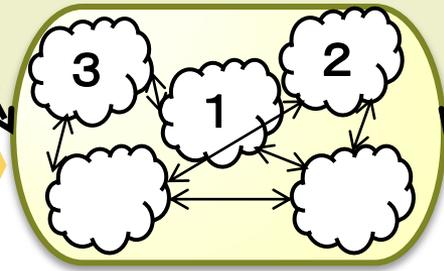


(A)絞り込み

(C)妥当性の確認



(B)ゴール抽出, 分析



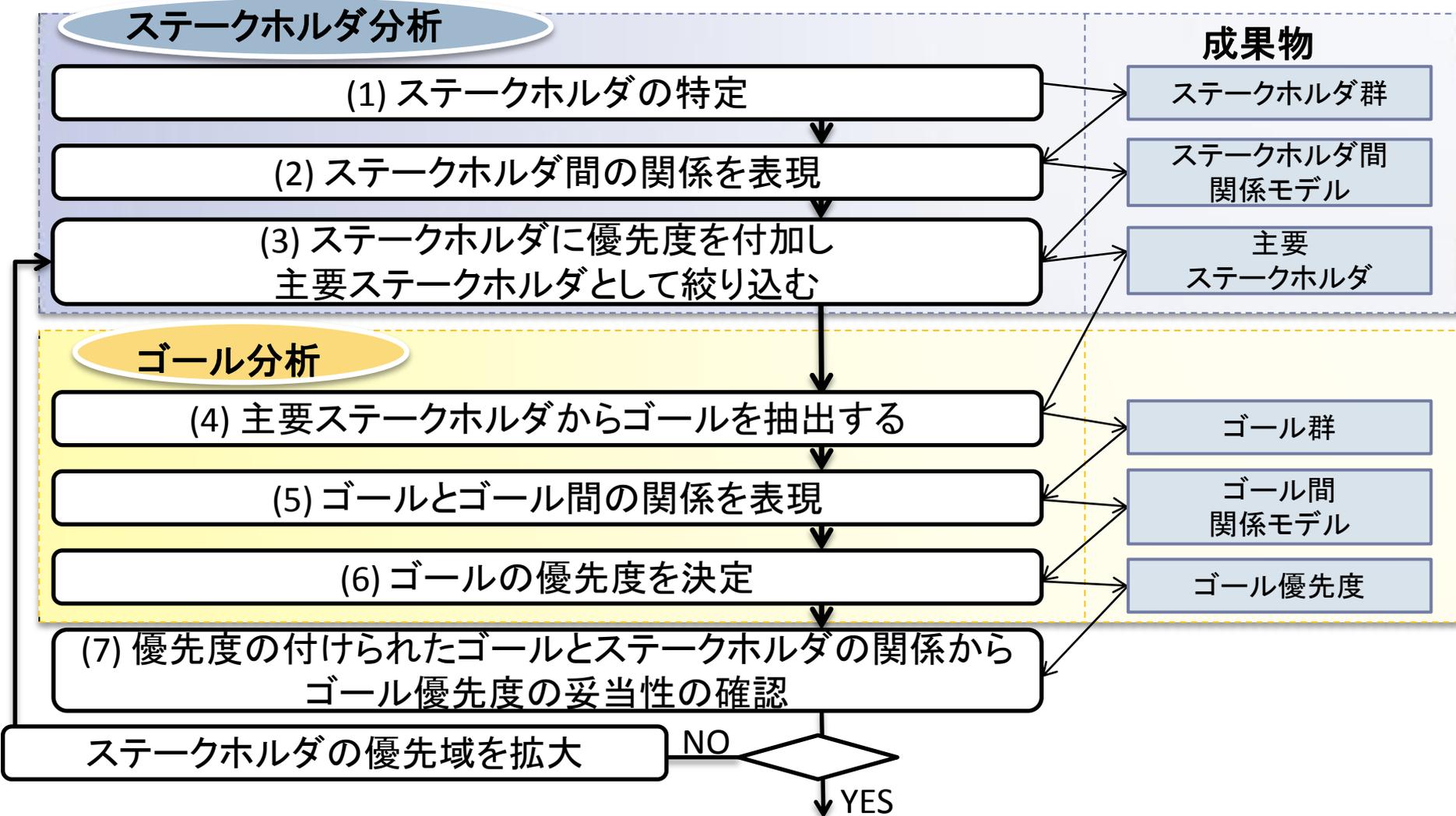
ステークホルダ絞り込み
情報量の限定

ゴールに優先度を決定し
開発対象ゴールの明確化

ステークホルダ間, ゴール間の関係を理解し分析可能

研究の全体像[2/2]

ゴールの優先度決定プロセス



ステークホルダ絞り込みプロセス

(1)ステークホルダの特定

(2)ステークホルダの役割を抽出

(3)役割における活動を抽出

(4)活動にリンクの付加

(5)活動におけるリスク/貢献関係を分析

(6)リスク/貢献関係の評価からリンクの分類

(7)相互作用マトリクスに表現し **ステークホルダの評価**

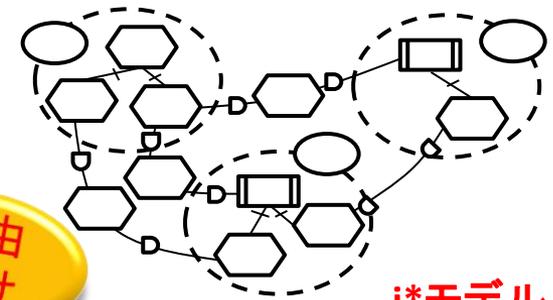
(8)マトリクスの評価から受動的リスク貢献と能動的リスク貢献をグラフにプロット

(9)開発目標に応じた領域を確定し **主要ステークホルダ**とする

ゴール分析

i*モデルの作成プロセス

段階的に情報を分析し、
i*モデルを作成



理由
付け

i*モデル

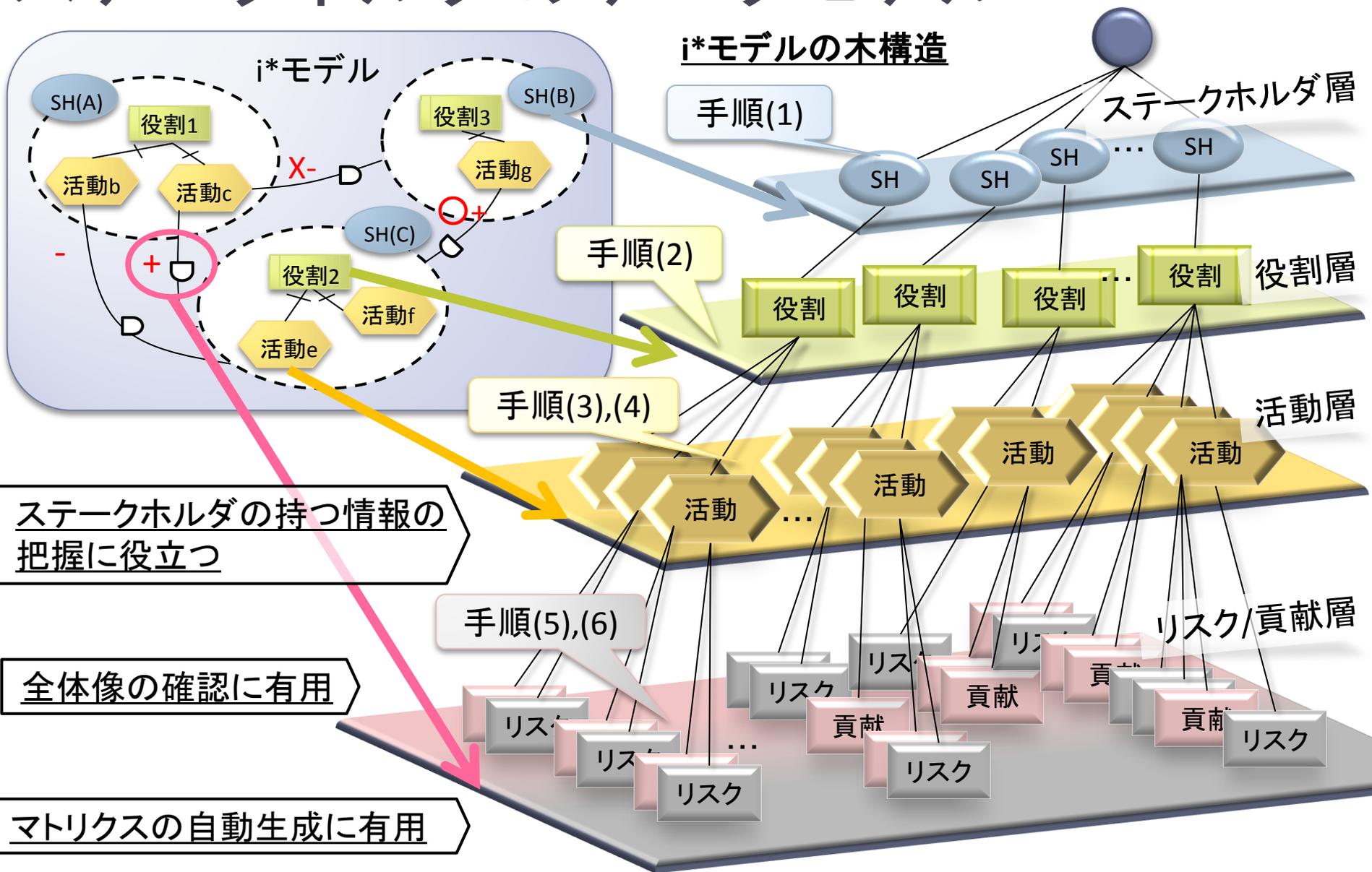
ステークホルダ評価プロセス

リスク影響度:32
貢献影響度:17

リスク影響度:4
貢献影響度:29

理由
付け

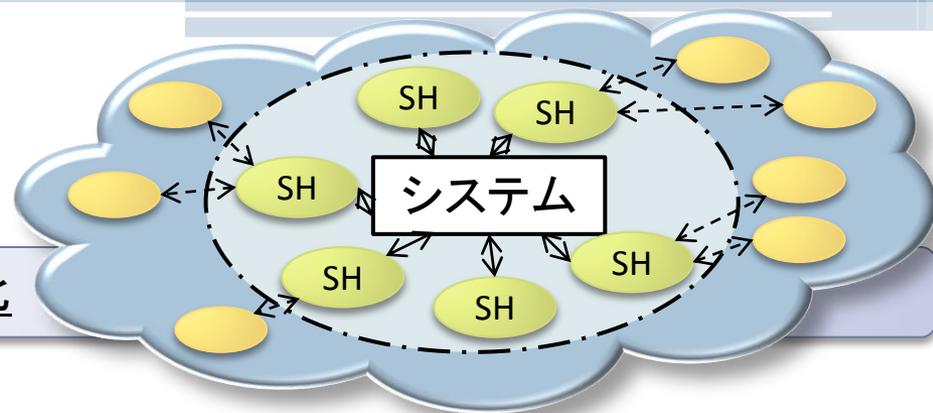
ステークホルダのデータモデル



分析手順[1/5]

(1)ステークホルダの特定

どんなステークホルダが存在するかを明確化



(2)ステークホルダの役割を抽出

手順(1)で特定されたステークホルダがどのような役割を持っているのかを明確化

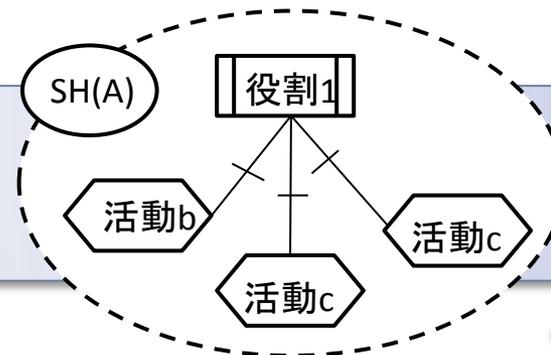
Ex. ベンダー, 経営者トップ, ユーザ, IT部門, etc

ベンダー	経営者トップ	ユーザ	IT部門	環境
ハードウェア ソフトウェア 開発 運用	役員 経営者 社長	部門マネージャ 現場担当 エンドユーザ	CIO 運用担当 企画担当	ライバル企業 法制度 エネルギー問題 環境問題

(3)役割における活動を抽出

手順(2)で特定された役割に
どのような活動が存在するのかを明確化

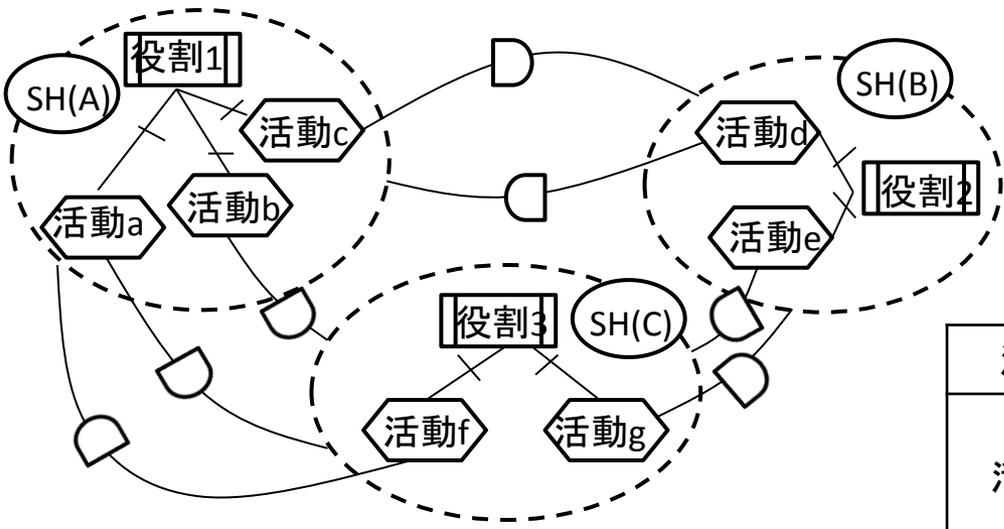
Ex. 予算審議, 承認, 開発, etc



分析手順[2/5]

(4)活動にリンクの付加

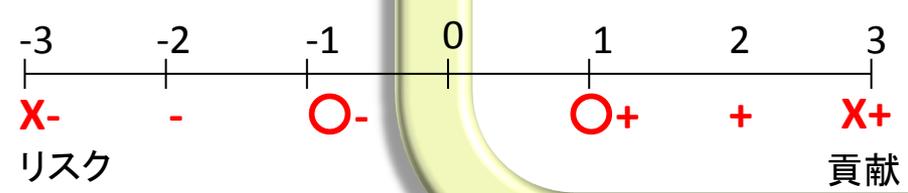
手順(3)で明らかになった活動がどのステークホルダに依存した活動かを明確化



(5)活動におけるリスク/貢献関係を分析

手順(3), (4)で明らかになった活動が持つリスク/貢献関係を分析し, -3から3の7段階で得点化

(6)リスク貢献関係の評価からリンクの分類



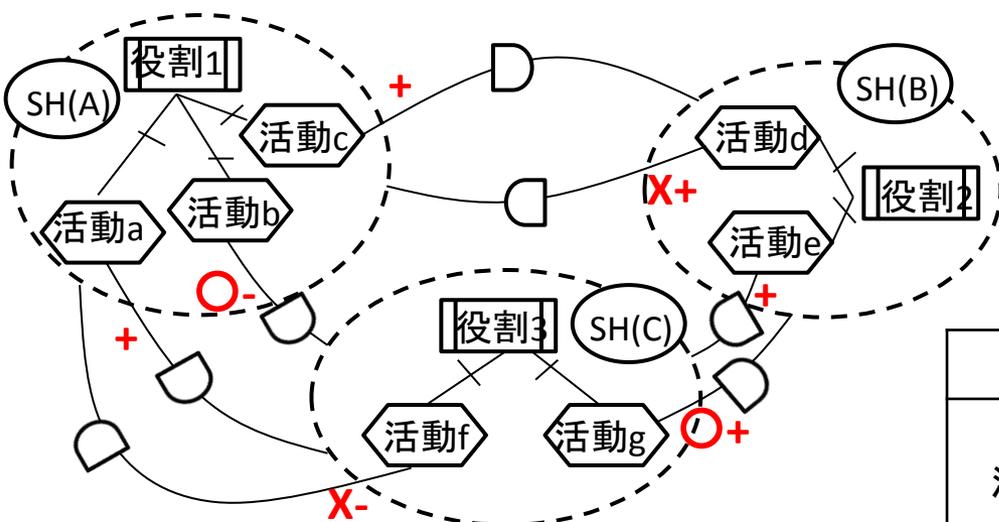
活動	リスク/貢献	評価
活動a	...	-3
	...	+2
	...	+1
活動b	...	+1
	...	-2
活動c	...	+2
活動d	...	-1
	...	+3
	...	+2
		:

リンクに影響度の付加

分析手順[3/5]

(4)活動にリンクの付加

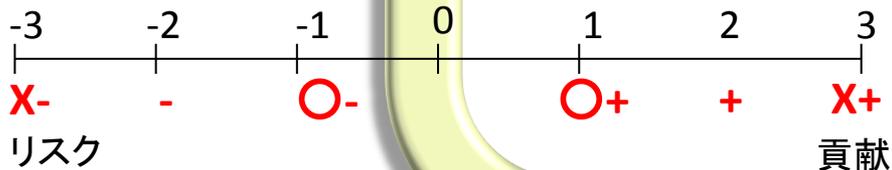
手順(3)で明らかになった活動がどのステークホルダに依存した活動かを明確化



(5)活動におけるリスク/貢献関係を分析

手順(3), (4)で明らかになった活動が持つリスク/貢献関係を分析し, -3から3の7段階で得点化

(6)リスク貢献関係の評価からリンクの分類



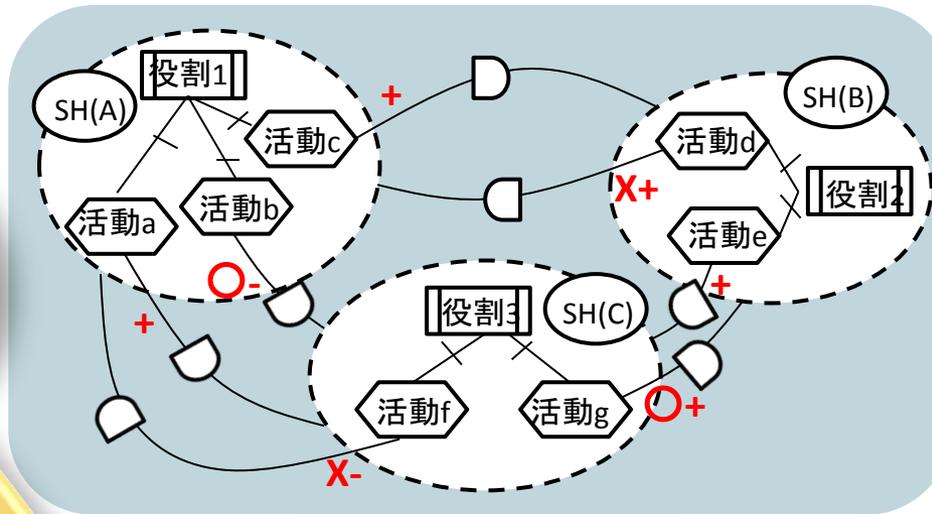
活動	リスク/貢献	評価
活動a	...	-3
	...	+2
	...	+1
活動b	...	+1
	...	-2
活動c	...	+2
活動d	...	-1
	...	+3
	...	+2
		:

リンクに影響度の付加

分析手順[4/5]

(7)相互作用マトリクスに表現しステークホルダの評価

リスクのみの視点で
SHの持つリスクの
能動値, 受動値を算出



貢献のみの視点で
SHの持つ貢献の
能動値, 受動値を算出

リスク評価

	SH(A)	SH(B)	SH(C)	SH(D)	SH(E)	能動値
SH(A)						
SH(B)						
SH(C)						
SH(D)						
SH(E)						
受動値						

貢献評価

	SH(A)	SH(B)	SH(C)	SH(D)	SH(E)	能動値
SH(A)						
SH(B)						
SH(C)						
SH(D)						
SH(E)						
受動値						

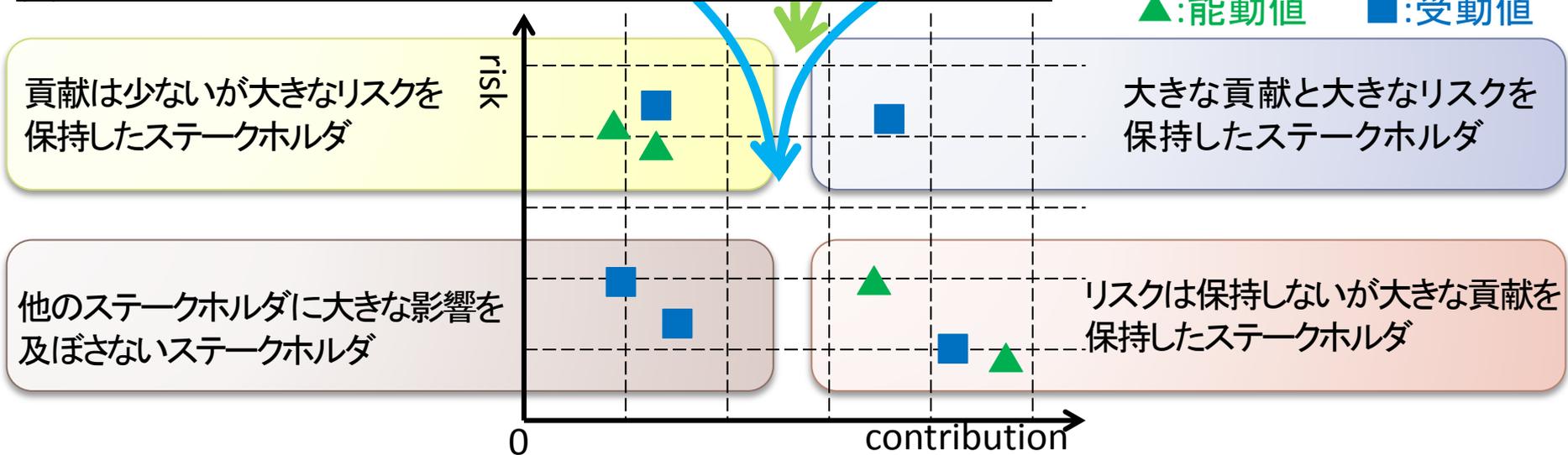
分析手順[5/5]

(8)マトリクスの評価から受動的リスク/貢献と能動的リスク/貢献をグラフにプロット

	SH(A)	SH(B)	SH(C)	SH(D)	SH(E)	能動値
SH(A)						
SH(B)						
SH(C)						
SH(D)						
SH(E)						
受動値						

	SH(A)	SH(B)	SH(C)	SH(D)	SH(E)	能動値
SH(A)						
SH(B)						
SH(C)						
SH(D)						
SH(E)						
受動値						

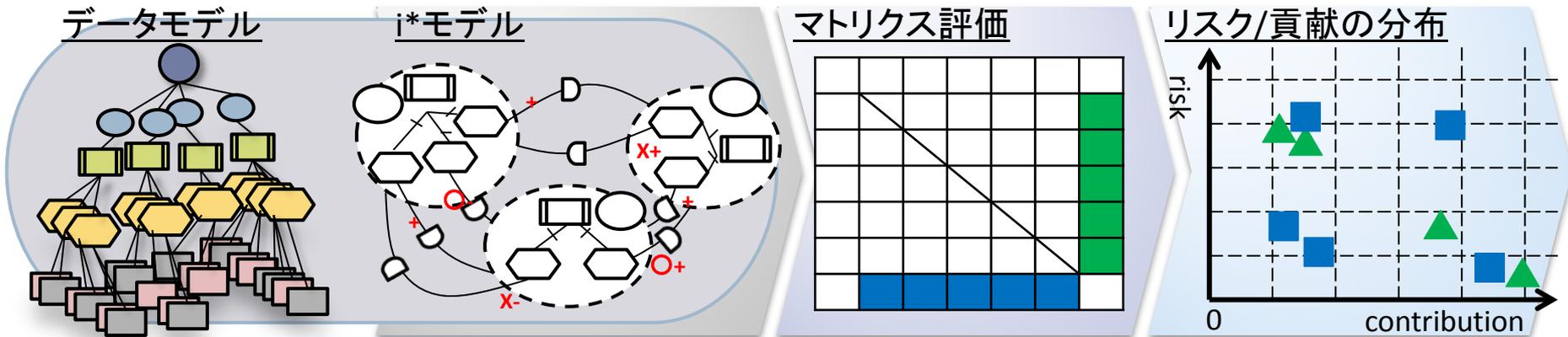
(9)開発目標に応じた領域を確定し主要ステークホルダとする



まとめと今後の課題

まとめ

ステークホルダ絞り込みのプロセスを詳細に定義



段階的に情報を付加し分析することで情報の見落としなどを軽減

今後の課題

ステークホルダ分析のプロセスの定義

1. リスク/貢献関係の分析方法の定義
2. 例題に適用し分析プロセスの有用性確認

1. 相互作用マトリクス自動生成
2. ゴール分析方法の定義



参考文献

- D. Glaesser, Crisis Management in the Tourism Industry, Routledge, 2006
- E. Yu , Social Modeling for Requirements Engineering , 2010.
- i* Intentional Strategic Actor Relationships modelling ,
<http://www.cs.toronto.edu/km/istar/#Software>.

ステークホルダを中心とする ゴール優先度決定プロセスの提案 END

2008MI105 木下康介
2008MI274 山下和希